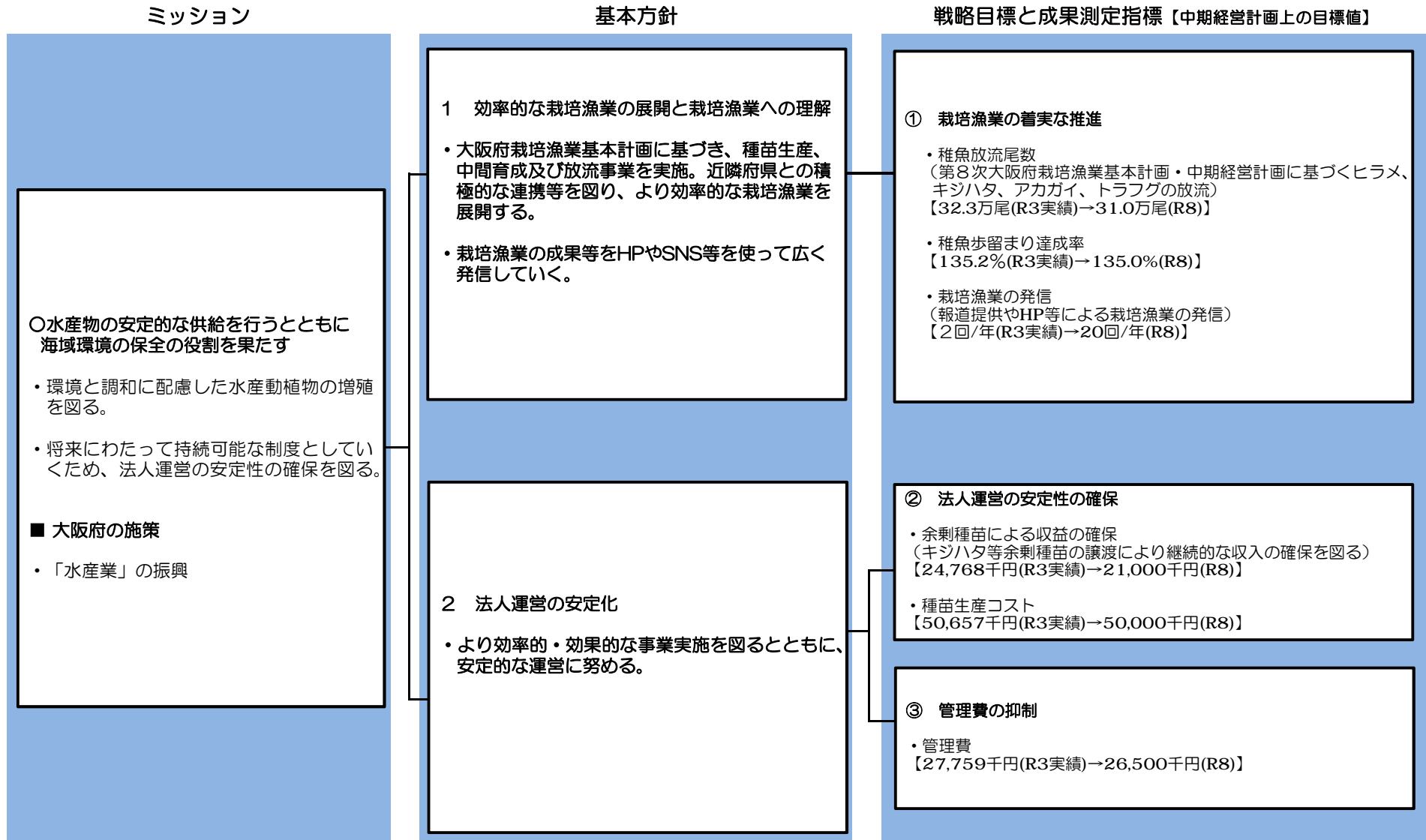


法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
作成（所管課）	環境農林水産部水産課

○ 経営目標設定の考え方



法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
-----	------------------

○ 令和4年度の経営目標達成状況及び令和5年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R4 ウエイト	R3 実績値	R4 目標値	R4 実績値 〔見込値〕	R5 目標値	R5 ウエイト	中期経営計画 (R4～R8)		R5目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R5 目標値	最終年度 目標値	
① 着実な栽培漁業の推進	稚魚放流尾数		万尾	50	<32.3>	26.0	29.4	↓27.0	50	-	31.0	R3年度までは、ヒラメ、キジハタ、アカガイの3魚種。R4年度からは、トラフグを加えた4魚種を対象とし、中期経営計画の最終年度の目標の達成に向け、段階的に放流尾数を増加する目標とした。(第8次大阪府栽培漁業基本計画)
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										戦略目標達成のための活動事項		
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<p>○大阪府海域ではベイエリア開発等により、親魚の産卵、稚魚の成育の場となる藻場や干潟が減少したため、この時期を人為的に管理する栽培漁業の取組みは極めて重要な政策課題。</p> <p>○府の水産課のマスタープランである「新・大阪府豊かな海づくりプラン」や「第8次大阪府栽培漁業基本計画」において、栽培漁業の推進、放流効果の高い魚種への特化を重点施策として位置づけ。</p> <p>○当法人でも、府内の漁業の発展と漁業者の生活安定を図る観点から、大阪湾における水産資源の回復・維持と漁業生産の向上を目指すこととしている。</p>											
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○令和4年度から始った第8次大阪府栽培漁業基本計画(令和4年度～令和8年度)の新規の放流魚種(トラフグ)の安定的な放流を行うため稚魚の育成技術の開発や放流通地の把握など知見を蓄積する。</p> <p>○生産・放流技術が確立した魚種については、生産コストを削減するための技術の開発、他府県との連携を進める。</p> <p>○新たに取組む魚種(メバル)については、中間育成技術の確立や放流通地、効果把握について環境農林水産総合研究所と連携を図りながら進める。</p>											
活動方針	<p>○令和4年度から始った第8次大阪府栽培漁業基本計画(令和4年度～令和8年度)に基づき種苗生産を確実に行う。</p> <p>○本事業を円滑に実施するため、施設の維持管理や推進体制の維持・構築に留意する。</p> <p>○大阪府及び地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センターとの業務分担、連携によって、円滑に栽培漁業を推進する。当法人においては、研究所と連携し、より放流効果の高い健全な種苗の生産・育成を行い、資源増大を図るとともに、大阪府が中心となって、漁獲された放流魚の付加価値向上を図る。</p> <p>(業務分担) >大阪府:栽培漁業基本計画の策定及び進捗管理、栽培漁業推進協議会の運営等 >研究所:栽培対象種放流後の効果把握のための調査研究、新魚種の種苗生産放流技術開発、基金への指導、施設の維持管理 >基金:栽培漁業基本計画に基づく種苗生産放流事業の実施</p>											
										<p>○第8次大阪府栽培漁業基本計画(令和4年度～令和8年度)の遂行</p> <p>○栽培漁業センター事業充実のための施設、推進体制の検討</p> <p>○近隣府県との連携 ・稚魚の餌となるフムシの安定的な確保 ・余剰種苗交換等効率的な栽培漁業の展開</p> <p>○第8次計画対象魚種の生産・放流技術開発の推進 ・ヒラメ:7次計画に引き続き、春季に稚魚を購入することで、冬季の使用燃油の削減等効率的な飼育を行う。 ・キジハタ:目標放流数10万尾を安定生産するための親魚の適正管理による卵の確保、定期的な間引きによる歩留まりの向上を図る。 ・アカガイ:30mmの大型種苗の放流を行うことにより、放流効果の向上を図る。 ・トラフグ:適正な中間育成の実施により放流後の生残率を高める。</p>		

法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
-----	------------------

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R4 ウエイト	R3 実績値	R4 目標値	R4 実績値 〔見込値〕	R5 目標値	R5 ウエイト	中期経営計画 (R4~R8)		R5目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R5 目標値	最終年度 目標値		
① 栽培漁業の着実な推進	稚魚歩留まり達成率 (実績歩留まり率(*1)/計画歩留まり率(*2)) (*1)R4実績歩留まり率=放流尾数/種苗生産尾数=66.8% (*2)府栽培漁業基本計画の歩留まり率=50%		%	15	135.2	135.0	×133.6	135.0	15	135.0	135.0	栽培漁業センターの種苗生産能力や技術レベル及び昨年度の実績値を踏まえて中期経営計画の目標値を設定	稚魚の餌となるワムシの安定確保や栽培技術力の向上等による効率的、効果的な種苗生産・放流の実施
	栽培漁業の発信 (報道提供やHP等による栽培漁業の発信)		回	5	2	20	20	20	5	20	20	各魚種(ヒラメ、キジハタ、アカガイ、トラフグ、メバル(技術開発魚種)の5魚種)について年間4回程度を想定して設定	種苗生産現場や放流風景等を報道提供やHP,SNS等により発信する

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

② 法人運営の安定性の確保	余剰種苗による収益の確保		千円	10	24,768	21,000	[23,133]	↓21,000	10	21,000	21,000	稚魚を生産する際にできる余剰種苗の生産量により目標値を設定	産卵親魚の仕立て、稚魚の選別等技術の向上による生残尾数の増加及び譲渡先の開拓
	種苗生産コスト		千円	10	50,657	53,000	[53,000]	50,000	10	50,000	50,000	R4年度に栽培漁業センターの補修工事が完了するため、R5年度は中期経営計画に基づき目標値を設定	R1年度から取り組んでいる一部魚種の種苗生産方法の見直しによる生産コスト削減を継続するとともに、その他経費(消耗品等)の削減努力を行う。
③ 管理費の抑制	管理費		千円	10	27,759	27,000	[27,000]	26,500	10	27,000	26,500	事務の効率化による事務経費等の削減(委託費の削減等)を想定して目標値を設定	事務経費の削減

【凡例】

- ・☆はR5年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値
- ・※<>内の数値は、ヒラメ、キジハタ、アカガイの3種分の数値。R4年度以降は、同3種にトラフグを加えた数値。

法人名

公益財団法人 大阪府漁業振興基金

CS調査の実施概要

○令和4年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
体験放流を通じて栽培漁業等の認知度を把握する	体験放流へ参加した小学生等に対してアンケート調査を実施	大阪府内で行われた海のイベントに参加し体験放流を行った小学生等	48名	令和4年6月12日 令和4年7月18日

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
栽培漁業の認知度について、小学校高学年以上の参加者に聞いたところ、知っているが56%と知らないをわずかに上回ったが、半数近くが知らないと答えた。 知っている 56% 知らない 44%	(結果を踏まえ実施した取組) ・体験放流時に大阪府で行っている栽培漁業の説明を実施。 (今後実施予定の取組) ・体験放流などイベントを通じて大阪府で行っている放流魚種の紹介や栽培漁業について紹介していく。 ・HP等を通じて栽培漁業の取組みについて発信していく。

○令和5年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
体験放流を通じて栽培漁業等の認知度を把握する	体験放流へ参加した小学生等に対してアンケート調査を実施	大阪府内で行われた海のイベントに参加し体験放流を行った小学生等	50名程度	令和5年6月～10月

■ 目標値未達成の要因について

[1]

成果測定指標	単位	R4年度目標値	R4年度実績値	目標値との差
稚魚歩留まり達成率	%	135.0	133.6	-1.4

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応	
①	トラフグの歩留まり率の低下			令和4年度から新たに栽培漁業対象種となったトラフグについては、健全な種苗の確保のために、（噛み合い防止の）歯切りを行っているが、作業後のへい死が予想以上に多かったことから歩留まり率が低い値となった。（作業は専門職だけでなく非常勤職員も多く動員して行ったため、ハンドリング等で個人差が生じたことが原因と考えられる。） ※令和4年度は2水槽のうち1水槽のみ歯切りを行った。 ①歯切り 1万尾収容 ⇒ 6400尾取上げ（歩留まり率 64%） ②歯切りなし 1万尾収容 ⇒ 9700尾取上げ（歩留まり率 97%）						水産技術センターと連携し、へい死原因を分析するとともに、作業員のハンドリングや標識装着技術の向上に向け技術指導を徹底し、歩留まり率の向上に努める。	
	関連項目名	トラフグ歩留まり率	単位	%	R4当初想定値	97.0	R4実績値	80.5	差		
②											
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値		差		
③											
	関連項目名		単位		R4当初想定値		R4実績値		差		

■ 令和4年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値〔見込値〕	R5年度の目標値
稚魚放流尾数	万尾	29.4	27.0

マイナス （現状維持） 目標の考え方	<p>キジハタについては、栽培漁業センターの水槽改修工事が令和4年度に完了したことから、1万尾増加し1.1万尾放流する計画である。</p> <p>ヒラメについては、目標値より1.3万尾上回ったものの、生残率は各年度の環境や稚魚の状態、疾病の発生状況等により2万尾程度の増減があることから中期経営計画の1.0万尾に設定。</p> <p>アカガイについても、令和4年度から5万個に設定しており、令和5年度も同数に設定。</p> <p>トラフグについては、最終年度に5万尾放流する計画であるが、他府県からの種苗の供給が不安定なため昨年度と同様の1万尾と設定。</p> <p>上記を踏まえ、令和4年度目標より1万尾多い2.7万尾と設定した。</p>
-----------------------------------	--

〔2〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値〔見込値〕	R5年度の目標値
栽培漁業の発信	回	20	20

マイナス （現状維持） 目標の考え方	<p>中期経営計画策定時に各魚種につき、毎年度概ね4回程度の発信（報道提供、SNS等）を行う（5種×4回＝20回）ことを見込んでいたため、年度ごとの目標数値も中期経営計画と同じ目標とした。</p>
-----------------------------------	--

■ 令和4年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値(見込値)	R5年度の目標値
余剰種苗による収益の確保	千円	[23,133]	21,000

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>令和4年度については、年明けに他府県の漁協から急遽購入の申し入れがあり、結果的に目標値を上回ったものの、来年度以降の当該漁協からの発注は、未定とのことであるため、令和5年度についても、令和4年度と同様、2022年3月策定の中期経営計画に則した数値とした。</p>
--	--

〔4〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値(見込値)	R5年度の目標値

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	
--	--